



十西小だより

弥富市立十四山西部小学校
学校だより 第18号



平成30年7月10日

「不思議だな」と思う心を

夏休みが間近に迫ってきました。学校では、1学期のまとめを進めています。

夏休みは普段できないことを経験するよい機会ですが、子ども自身が興味・関心をもたないと、大人がよかれと思って新しい経験をさせても、見えているようで見えていない、聞こえているようで聞いていない状態であることが多いようです。いろいろなことに興味をもち、質問攻めをするお子様もいますが、意外に子どもたちは、目の前で起こる現象を「当たり前」と思っているようです。「当たり前」と思ってしまったら、疑問は湧いてきません。では、子どもたちの「不思議だな」「知りたいな」と思う心を育てるには、どのようにすればよいのでしょうか。それは、周りの大人が見本を見せることです。難しいことではありません。「空ってなぜ青いのかな」とか「夏ってどうして暑いのかな」と子どもたちの前でつぶやけばよいのです。調べて答える必要はありません。「当たり前」の壁を崩してあげることが大切なのです。もし、興味をもったら、調べる方法を示してあげたり、場合によっては一緒に調べてあげたりするのもよいと思います。自分から求めた知識は、確実に身に付きます。この夏は、知的な冒険にお子様を誘ってあげてください。

非常持ち出し袋について

月曜日の朝礼時に「非常持ち出し袋」についてのお話がありました。本校では、職員一人一人が右の写真のように、飲料水や非常食、懐中電灯などが入ったリュックサックを持ち出せるようにしてあります。最近、地震や水害など、大きな自然災害が続いています。ご家庭でも準備をされていることと思いますが、この機会に、中身を点検していただき、避難時に何が必要になるのかをお子様と話し合っただけければと思います。



防災教室 ～地震がきたときに考えること～

7月9日の防災教室は、「愛知県西部防災ボランティアコーディネーターネットワークの会」代表の東嶋とも子さんをお招きし、子どもたちに講義をしていただきました。初めに、地震が起きたとき、校内ではどのような危険が考えられるか、場所や時間ごとに教えていただきました。次に、代表の児童が、台車を使った地震の模擬体験をしました。身の守り方と揺れに耐えられる姿勢（ダンゴムシポーズ）を教えていただき、揺れる台車の上で実践しました。最後に全員で一斉にダンゴムシポーズを取りました。

安全な場所に避難するためには、けがをしないことが大切です。子どもたちが「**自分の命は自分で守る**」ことができるように、身の守り方を身に付けさせていきたいと思っています。

